

立花文穂展 印象

IT'S ONLY A PAPER MOON

《プレス向け内見会のお知らせ》

2022年7月22日(金) 14:00～15:30 受付開始 13:30

場所●水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者●立花文穂(出品作家)

井関悠(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

【展覧会概要】

展覧会名●立花文穂展 印象 IT'S ONLY A PAPER MOON

会期●2022年7月23日(土)～10月10日(月・祝)

開場時間●10:00～18:00(入場は17:30まで)

会場●水戸芸術館現代美術ギャラリー

休館日●月曜日 ※ただし9月19日、10月10日(月・祝)は開館、
9月20日(火)は休館

入場料●一般900円、団体(20名以上)700円

高校生以下/70歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き
添いの方1名は無料

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

※年間有効フリーパス→「年間パス」2,000円

学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」→

学生証をお持ちの方と65歳～69歳の方は、毎月第一

金曜日(8月5日、9月2日、10月7日)100円

主催●公益財団法人水戸市芸術振興財団

助成●芸術文化振興基金

協力●サントリーホールディングス株式会社、SCOPE

企画●井関悠(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)



《書体》より「云云」 2018年

文字や紙、本を素材・テーマに作品を制作してきたアーティスト、立花文穂(たちばな・ふみお、1968年広島生まれ)による、美術館での初個展を開催します。

製本業を営む家に生まれた立花は、幼少期より身近に存在した紙や印刷物、文字などから着想を得て、「よせ集める」「つなぎ合わせる」という行為を通じ新たなかたちをつくりだしました。2000年に入り活版による印刷物や大判カメラで撮影した写真、さらにブロンズによる彫刻など「文字」を基軸にした作品を制作し表現を探ってきました。同時に、葉がきからポスターまで多種多様な印刷物や本などのグラフィックデザインで高い評価を得るなど分野を横断して活動してきました。2007年から責任編集とデザインを自らが担当し発信する媒体として刊行する『球体』もその一つです。

立花の表現の原点には、紙に触れること、文字を書くこと、があります。それらは、実父が営んできた製本所の存在、子どもの頃から親しんだ「書」、そして彼の生まれ故郷である広島歴史と記憶へとつながっていきます。

近年、立花は、筆を持ち「書」のような作品へと回帰しています。

本展は、「印象」(英語では「IMPRINT/IMPRESS」)というタイトルのもと印刷/印字と象形(かたどる/かたちづくる)という立花の創作の思想・思考に深く触れられる機会となるでしょう。

美術館における初の個展として、本展に合わせて制作される新作とともに、彼の四半世紀にわたる創作を総体的に紹介します。



撮影＝長野陽一

【立花文穂（たちばな・ふみお）略歴】

1968年広島市生まれ。文字・紙・本にまつわる作品を制作。1995年に佐賀町エキジビット・スペースでの個展「MADE IN U.S.A.」でデビューを飾り、以降、国内外で作品を発表。主な個展に「機会 OPPORTUNITIES」(2021年、東京ビエンナーレ2020/2021)、「書体 | shape of my shadow」(2018年、Sprout Curation、東京)、「PLASTIC」(2016年、THE MASS、東京)、「デザイン 立花文穂」(2011年、ギンザ・グラフィック・ギャラリー、東京)、「木のなかに森がみえる」(2005-2006年、SHISEIDO La Beaute、パリ)、「変体」(2001年、ギャラリー 360°、東京)など。主なグループ展に「小池一子展 Alternative!」(2022年、3331 Arts Chiyoda、東京)、「風穴 もうひとつのコンセプトアリズム、アジアから」(2011年、国立国際美術館、大阪)、「解きほぐすとき MOT アニュアル 2008」(2008年、東京都現代美術館、東京)、「Installations by Asian Artists in Residence」(1999-2000年、Mattress Factory、Pittsburgh)、「Selection's Winter '97」(1997年、The Drawing Center、NY)などがある。2007年より責任編集とデザインを自らが担当し発信する媒体として『球体』を刊行(2022年7月1日に9号刊行予定)。「傘下」(2020年、広島 球体編)、『風下●立花文穂』(2012年、(財)DNP 文化振興財団+広島 球体編)、『クララ洋裁研究所』(2000年、バーナープロス)など数多くのアーティストブックを制作。著書に『立花文穂作品集 Leaves』(2016年、誠文堂新光社)、『かたちのみかた』(2013年、誠文堂新光社)。

【本展のポイント】

●初の美術館での個展●

1995年、立花文穂はクリエイティブディレクターの小池一子が開設した佐賀町エキジビット・スペースで開催した個展「MADE IN U.S.A.」でデビューを飾りました。以降、美術・グラフィックデザイン・編集・印刷・出版といったさまざまな領域を横断しながら活動してきました。本展は四半世紀にわたる立花の創作活動を振り返るとともに、立花の新たな展開を紹介する、初の美術館での個展となります。

●本展図録を『球体』として刊行●

本展図録を、立花自らが責任編集とデザインを担当し発信してきた媒体である『球体』最新号として刊行します。立花が「美術、写真、建築、ことば、…さまざまな表現をぐちやつとまるめた紙塊」と称する『球体』は、2007年に創刊され形態や仕様を変化させながら続いており、これまで8号を数えます。本展示の記録も含めた最新号では、美術館とはまた別の紙上ならではの時間と空間を体験できるものになるでしょう。

●《球体 9『機会 OPPORTUNITIES』》の展示とライブパフォーマンス●

昨年夏に開催された東京ビエンナーレ 2020/2021 のなかで発表した「機会 OPPORTUNITIES」を本展で再展示します。立花が所有する活版印刷機を「楽機」として演奏(操作)しギターや鍵盤プレーヤーとのコラボレーションで発表された同作品は、《球体 9『機会 OPPORTUNITIES』》としてレコードで7月1日にリリースする予定です。音が呼応する場に遭遇した人とともに、その場限りの時間が流れるインスタレーションがかたちづくられていくでしょう。

【関連プログラム】

●『立花文穂展 印象 IT'S ONLY A PAPER MOON』開幕記念対談 立花文穂 × 小池一子

本展開幕を記念し、学生時代から立花を見続けてきたクリエイティブディレクターの小池一子と立花文穂による対談を開催します。

出演●立花文穂（本展出品作家）、

小池一子（クリエイティブディレクター、佐賀町アーカイブ主宰、
武蔵野美術大学名誉教授）

日時●7月23日（土）14:00～15:30（13:30開場）

会場●ACM 劇場

定員●80名 ※要予約／先着順（詳細は弊館HPをご確認ください）

参加費●無料 ※展覧会入場券が必要です。

●『機会 OPPORTUNITIES』Live

立花が所有する活版印刷機を「楽機」として演奏（操作）しレコードで発表予定の《球体9『機会 OPPORTUNITIES』》。本展会期中に、インスタレーションの機械音に呼応するギター演奏や鍵盤プレイヤーとのコラボレーションを実施します。

出演●立花文穂＋畑俊行 [IL TRENO]＋野村卓史 [IL TRENO]

日時●不定期 ※開催日程は当館現代美術センターHP、twitter等のSNSで告知します。

会場●現代美術ギャラリー ※展覧会入場券が必要です。



撮影＝山崎宏之

【展覧会関連 教育プログラム】

■ ウィークエンド・ギャラリートーク ■

市民ボランティア CAC ギャラリートーカーとともに展覧会を鑑賞します。
おひとりでも、お誘いあわせでもご参加ください。参加ご希望の方はギャラリー入口にお集まりください。

日時●8月6日（土）より毎週土曜日 各日 15:30～16:30

※ただし他のプログラムとの関連で中止となる場合もございます。

料金●無料（展覧会入場料に含まれます）

「こども・こらぼ・らぼ 2019」
ワークショップの様子
撮影=矢野津々美



■夏のこらぼ・らぼ■

2011年より夏休みにアーティスト・ワークショップをお届けしているこらぼ・らぼシリーズ。今年の夏は、立花文穂と一緒にオリジナルの象形文字を作る他、イラストレーターのワタナベケンイチ、製本家、デザイナーの村上亜沙美によるワークショップを行います。作ることを楽しむ夏の2日間です。
日程●8月20日(土)、21日(日)
会場●現代美術ギャラリー内ワークショップ室ほか
対象●参加費：プログラムによって異なります
※申込方法、プログラム等詳細はチラシ・ホームページをご覧ください。

「かたちのみかた●象形文字を書いてみよう」

当館で個展を開催中のアーティストと一緒に、思い出や記憶をかたどり、じぶんしか読めない文字を作り出すワークショップです。生まれてきたかたちを、大きな紙に、のびのびと書いてあらわしてみよう。

講師●立花文穂(本展出品作家)

日時●8月20日(土) 10:30～12:30 / 14:30～16:30

会場●現代美術ギャラリー内ワークショップ室等

対象●小学生～中学生(大学生までの学生は応相談)

定員●各回20名程度

※申込方法等詳細はチラシ・ホームページをご覧ください。

○その他2～3のプログラムを計画しております。



「HIBINO CUP」の様子

【同時開催】

●日比野克彦「HIBINO CUP」●

アートとスポーツが一緒に楽しめる恒例のワークショップ。午前はチームごとに段ボールなどでゴールとボールを創作し、Tシャツに絵柄を描いてユニフォームをつくります。午後にはそれらを用いてオリジナルのミニサッカーをして競い合うイベントです。親子や友人同士でお楽しみいただけます。
※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、接触の伴うサッカーではない形式で実施します。

日時●9月18日(日) 10:00～16:00

※雨天の場合はプログラムを変更して同日開催

会場●広場

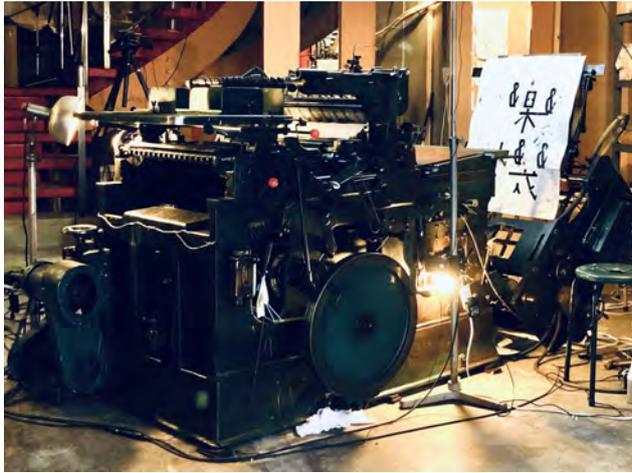
対象●小学生以上(予定)

主催●HIBINO CUP 実行委員会、公益財団法人水戸市芸術振興財団

※申込方法、プログラム等詳細はチラシ・ホームページをご覧ください。

【図版】

展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は
広報・鳥居までお問合せください。



1.



2.



3.



4.

1. 球体9『機会 OPPORTUNITIES』2021年
2. 《へのへのもじへ》2014年
3. 『球体1』2007年
4. 《クララ洋裁研究所》2000年
撮影=久家靖秀
5. 《傘下》2020年
6. 《木のなかに森がみえる》
2007年



5.



6.

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8
Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130
<https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について = 井関悠 (主任学芸員)
教育プログラムについて = 森山純子、中川佳洋 (教育プログラムコーディネーター)
広報・写真貸出について = 鳥居加織 (広報) e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp
*詳細は公式ツイッターhttp://twitter.com/MITOGEI_Galleryでも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号 029-227-8111 でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることのできない場合がございます。

【交通のご案内】

[JR]

東京駅(品川、上野発もあり)から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。駅北口バスターミナル④～⑦番のりばから「泉町一丁目」下車。降車後バスの進行方向に進み、すぐの交差点で大通り(国道50号)を渡り、横断歩道と平行する脇道をそのままお進みください。徒歩2分。

◎ 料金 = 特急 片道 3,890 円 / 普通各停 片道 2,310 円 (2022年5月現在)

※ご予約・時刻表など詳しくはこちらをご参照ください。

JR 東日本旅客鉄道 Tel.029-221-2836 <http://www.jreast.co.jp/>

[高速バス]

東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」(赤塚又は茨大ルート)で約100分、「泉町一丁目」下車、徒歩2分。切符は東京駅八重洲南口バス券売機、水戸駅北口バスチケット売場でお求めください。

◎ 料金 = 東京駅 - 水戸駅 片道切符 2,120 円。

ツインチケット(2枚綴り回数乗車券 4,000 円)。(2022年5月現在)

※詳しくはこちらをご参照ください。

茨城交通 Tel.029-251-2331 <http://www.ibako.co.jp/>

[お車]

常磐自動車道水戸ICから国道50号に下りて市街地方面にお進みください。約20分、国道349号との交差点「南町3丁目」で左折(左手にみずほ銀行がございます。)、 「2つ目の信号」でまた左折をしてください。そこから信号ひとつ過ぎたところで水戸芸術館地下の市営五軒町駐車場のマークが見えてまいります。

◎ 駐車場料金 = 30分まで無料、1時間まで200円、以降30分毎100円 /

営業時間: 7:00 ~ 23:00

※高速料金・ルートなど詳しくはこちらをご参照ください。

東日本高速道路「ドラぷら」 Tel.0570-024-024 <http://www.driveplaza.com/>